

スポーツ様変わり



「スポーツの秋」である。ラグビー・ワールドカップ(W杯)の日本代表の大活躍もあって、「スポーツの力」が改めて各方面で実感されている。

一方で、スポーツと健康問題がクローズアップされた。

中学や高校の部活では、全体に「やりすぎ」への是正が始まっている。スポーツ庁のガイドラインに沿って、県教委は今年度から活動時間の上限を中学は「平日2時間、休日3時間」、高校は「平日3時間、休日4時間」に設定して現場指導している。

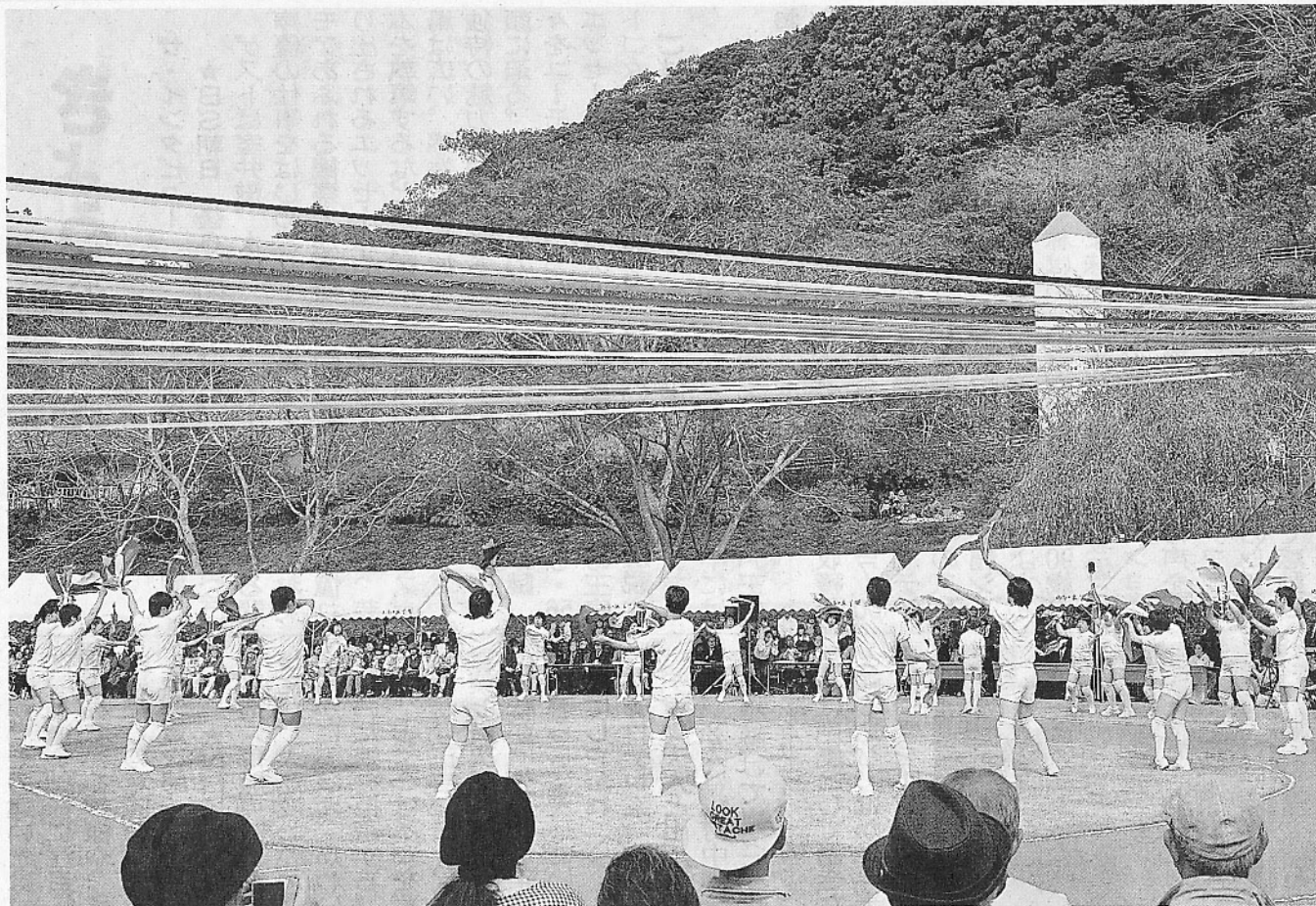
秋晴れの10月27日、掛川市上垂木で「ねむの木学園運動会」があった。

ねむの木学園は、1968年に宮城まり子さんが日本初の障害児養護施設として浜岡町(現・御前崎市)に設立した。その後、養護学校(小・中・高等部)を開校、97年に現在の場所に移転した。

宮城さんは55年に歌手デビューし、「ガード下の靴みがき」のヒットで国民的アイドルになった。俳優や作家としても活躍したが、突然、私財を投じて障害児福祉の道に転じた。約半世紀の活動は、そのままわが国の障害児福祉の歴史に重なる。

秋の風物詩だった小中学校の運動会は春の開催が増え、熱中症対策などから午前中で切り上げる「平日運動会」が増えているという。様変わりの中で「ねむの木学園運動会」は、今年で51回になった。約1000人の障害児者が運動場を跳びはねる姿を、自らも車椅子姿で優しく見つめる宮城まり子さん。92歳になった元アイドルのほおをさわやかな秋風が撫でた。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



ねむの木学園の運動会＝掛川市、全日写連・中田美智雄さん撮影